



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
588人	308世帯	13自治会	52.9%

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point 多世代を巻き込む「企画委員会」の設置

コミュニティひろばi-meiji（以下、i-meiji）では事業、活動の企画・運営を担う企画委員会を設置しています。毎月1回程度、活動や広報誌について話し合っています。

〈メンバーと役割〉

企画委員会はi-meijiの事業や活動の企画・運営を担う、組織内の「考える」部分を担当するためのチームです。現在正副会長・事務局含む**20代～70代の男女10人程度**で構成されています。

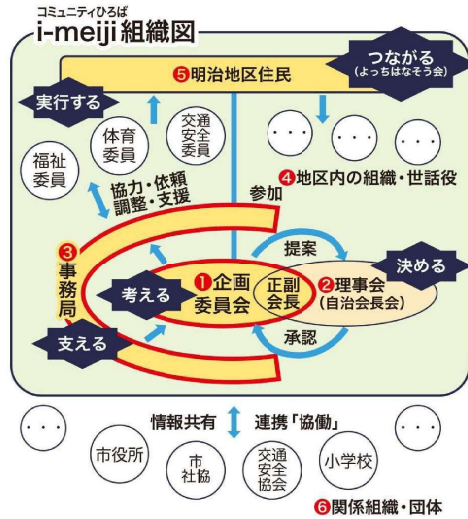
通常、事務局長に集中しがちな「考える」役割を、**多様なメンバーのチームで担います**。企画委員会のメンバーは、充て職や地区選出ではありません。若手女性を中心に役員が一本釣りで声をかけました。

企画委員会のメリットは、新しいアイデアの企画・運営ができることと、多様なメンバーの交流、人材育成が進むこと、**事務局は企画委員会のサポートに集中**できることです。

〈デジタルツールを活用〉

県の事業を活用し、メンバーに1人1台タブレットを配布しています。タブレットではコミュニケーションツール（Discord）を活用しながら、何気ない話や会議の日程調整、広報誌に使用する写真や記事内容の確認など、**日ごろから会議以外の情報交換**を行っています。

また、HPやX（旧Twitter）などSNSの更新も、企画委員会内で順番を決めて活発に行っています。



▲i-meijiの組織図は、中心に企画委員会が置かれています。



▲企画委員会でデジタルツールの勉強会を行っています。

コミュニティひろばi-meijiの概要

令和2年9月に設立し、竹田市公民館明治分館を拠点として活動しています。竹田市からは活動費、事務局人件費を含む運営費として毎年約100万円の支援を受けています。部会制は数かず、企画委員会と地区内の各種組織団体が連携して活動しています。スローガンは「みんなで考え、みんなで話し、みんなで暮らす、新しいみんなの明治」。

〈主な活動〉

- 生きがいサロン：毎月2回、身体や頭のトレーニングを楽しく行う
- 若者交流会：芋ほり・焼き芋体験やチョコレートづくりなど
- 広報活動：広報誌発行、HP・X運営などSNSを活用し情報発信
- 自治会設立支援：地区内にできた新しい住宅団地での自治会設立をサポート

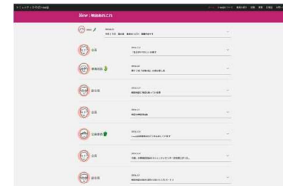


うまいもんをみんなで作って食べました

▲広報誌はコミュニケーションツールを使い、分担しながら記事を作成しています。



▲企画委員会では、親子で楽しめる若者交流会を開催しています。



◀HP「明治のあれこれ」企画委員会メンバーが交代で明治地区の紹介や日常の出来事を発信しています。

今回お話を伺いました!

企画委員会と共につなぐ未来

先日、竹田市内の小学4年生が郷土学習の一環として明治分館に来てくれました。その際何名かが「ここに来たことある!」と話しかけてくれました。

企画委員会が発足したことで、こどもや親世代との交流をテーマにした芋ほり・焼き芋体験などの新しい活動が生まれました。こどもたちの発言はその成果のひとつです。

ゆくゆくはi-meijiでもっと多くの人に活躍してもらえたらと思います。そして地区内外、多世代、様々な人・地区が繋がればと思っています。



酒井会長 大塚事務局次長

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：0974-62-3164
メール：mei-3164@oct-net.ne.jp
住所：竹田市平田5773-1
竹田市公民館 明治分館内



◀HP



◀X (旧Twitter)

中津江むらづくり役場



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
605人	306世帯	4自治会	54.7%

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point 柔軟な活動を引き出す「プロジェクト制」の導入

中津江むらづくり役場（以下、むらづくり役場）では、活動のマンネリ化や議論の硬直化を防ぐために、プロジェクトチームを設置しています。

〈柔軟なプロジェクトチームの設置〉

むらづくり役場では、地区で最大のイベント「ふるさとまつり」の内容のマンネリ化と、参加者の固定化をどうにかできないかと考えていました。そこで、部会とは別に「ぼちぼちいこう会」というプロジェクトチームを結成しました。

むらづくり役場の役員とむらづくり役場の活動にあまり携わっていない人をミックスして**総勢16人**で結成しています。**役員や事務局で人選を行い、事務局長が直接交渉**したことで実現しました。初参加の人から自由な発想をもらい、既存の役員から現実的な話が出ることで、実現可能性の高い斬新な企画が生まれました。

〈多彩な事務局機能〉

むらづくり役場では、事務局職員2名体制で運営を支えています。主に、高齢者の見守り、関係機関との情報共有、振興協議会事務、部会等の開催、年度ごとの運営方針・活動計画策定、「かわら版」の発行を行っています。加えて、前段の**ぼちぼちいこう会のメンバー集め**も事務局が行っています。

むらづくり役場には、日ごろから多くの人を訪れています。たくさんの情報や人が集まる事務局は、地区の大切なつながりの場の役割を果たしています。



▲多様な世代が集まったぼちぼちいこう会の会議の様子。



▲交流促進センターの1階に拠点を設け、誰でも寄りやすい場所になっています。

中津江むらづくり役場の概要

平成30年10月に既存の「中津江振興協議会」を住民自治組織（地域コミュニティ組織）としてリニューアルし、以前は3つだった部会を5つに増やしました。スローガンは「みんなが主役の村づくり」。

〈主な活動〉

- まなぶ部会：身近な学びを暮らしに活かす各種講演会の実施
- くらす部会：デマンドバスの利用促進 独居高齢者への声掛け訪問
- つどう部会：月いちパズルの開催 ふるさとまつりの開催準備 各種イベント行事の再検討
- まもる部会：自主防災組織の活性化 防災訓練の実施内容検討 暮らしを守るための寸劇開催
- つくる部会：地域観光のPR（マップ作製や物産展出展） 住民ツアー開催



▲高齢者訪問は、見守りと大切なコミュニケーションの時間です。



▲広報誌「かわら版」は、隔月で発行されています。



◀月いちパズルは毎月大変好評です。

楽しく無理せずにやろうよ！

むらづくり役場に携わることは、自分自身とても楽しいです。ただ、イベントや一回の活動が目的やゴールではありません。今後は、ぼちぼちいこう会のようなプロジェクトチームを他の活動にもつくっていきたいと考えています。地域づくりに関心のない人にもぜひ携わってほしいです。

「楽しい」が伝染して、地区内だけでなく外の人にもむらづくり役場を知ってもらいたいです。



永瀬事務局長

今回お話を伺いました！

問い合わせ先 SNSはこちら

電話：0973-54-3200
メール：nmy3200@hita-net.jp
住所：日田市 中津江村 栢野2630番地9（中津江村交流促進センター1階）



◀HP



◀Facebook



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
2,823 人	1,414 世帯	6 自治会	38.2 %

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point 若手世代が支える部会活動と担い手育成の仕組み

奈狩江地区住民自治協議会（以下、奈狩江自治協）は現在3部会で構成されていますが、その部長・副部長6人のうち半数が若手・女性です。また、部員構成も若手世代が多いことが特徴です。

〈地域計画書と若手世代〉

多くの若手世代が、奈狩江自治協へ参加するきっかけとなったのは、地域計画書の見直しでした。

組織設立して約8年後、地域計画書を見直すため、策定委員会を結成しました。そのメンバー選定の際、各地区から若手・女性の人たちを推薦してもらったことがポイントです。策定委員会のメンバーは、計画書の見直しが終わった後も、奈狩江自治協の組織活動や運営に関わっています。



▲地域計画書策定委員会では様々な世代で意見交換しています。



▲ハロウィンマルシェは若手世代ならではの発想でした。



▲小学校津波避難訓練など小学校と連携した活動を多く行っています。

〈任せる姿勢と若手世代の活躍〉

奈狩江自治協の役員は「部会が考えたアイデアはとりあえずやってみよう」という姿勢を大切にしています。木村会長は「部会で考えたことだから大丈夫、なにより自分たちが楽しいと思いがながら活動することが大事」と話していました。

役員が信頼し任せる姿勢をとることで、若手世代が安心して活動や企画運営をすることができています。奈狩江自治協の若手世代を上手く巻き込むポイントは、参加するきっかけづくりと、思い切って任せてみる姿勢と言えます。

奈狩江地区住民自治協議会の概要

平成22年4月設立。杵築市奈狩江地区コミュニティセンターを拠点として活動しています。平成30年に組織の体制・活動などを見直すため、策定委員会を立ち上げ約1年かけて地域計画書を策定しました。

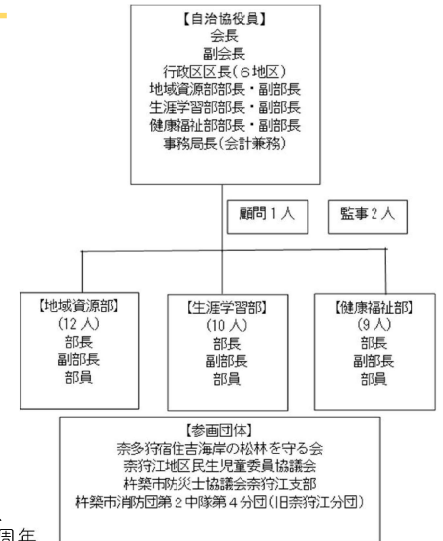
〈主な活動〉

- 地域資源部：奈多海岸の清掃・十五夜フェスなど防災や移住などの活動
- 生涯学習部：椎茸コマ打ち・いかだづくり体験など教養講座や世代間交流の活動
- 健康福祉部：なかえカフェなど地区社協が編入し連携



▲いかだづくり体験のように親世代の目線で子どもが喜ぶ活動を企画運営しています。

▼なかえカフェでは、令和5年9月に1周年イベントを行いました。



▲奈狩江自治協の組織図。各部会で活動の企画・運営を行っています。

私たちが積極的に関わるワケ

私たちはたまたまPTA役員だったから、などの理由で自治協議会に参加し、最初はこの自治協のことを知りませんでした。今まで続けられたのは、「自由」に「何でも」楽しく活動できたからだと思います。木村会長はじめ役員の人たちが私たちの提案に否定的だったことは一度もありません。とにかくやってみようと思いを押しつけて知恵を貸してくれます。「夏休みの自由研究、家で作るの難しいよね」って世間話をきっかけに活動案ができたこともあります。

やりたいことをやれる環境だからこそ、私たちが一番楽しんで活動を続けられているのだと思います。



生涯学習部の皆さんと木村会長

今回お話を伺いました！

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：0978-63-8788
メール：nakarietiku@city.kitsuki.lg.jp
住所：杵築市大字狩宿2113-1
奈狩江地区コミュニティセンター内



◀note



◀Instagram

山の手ひとまもり・ まちまもり協議会



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
16,589 人	9,625 世帯	23 自治会	35.8 %

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

Point 広い組織区域（中学校区）での学校との連携

山の手ひとまもり・まちまもり協議会（以下、ひとまち協議会）は組織区域として全国的に少数である※中学校区（3地区）を圏域として活動しています。

〈3地区にわたる組織区域〉

ひとまち協議会がある別府市では、中規模多機能自治を推進しており、市内7区域それぞれが中学校区を圏域としています。ひとまち協議会は**3小学校区で構成**されています。

中学校区で組織を設立する際、小学校区ごとの風土や歴史、既存活動の違いなどが障壁になるケースがあります。ひとまち協議会でもそこが懸念点でした。その際、**各地区の既存団体と課題を共有することで、少しずつ賛同者を増やしました。**ひとまち協議会が組織設立に至った要因は、一歩ずつ着実に準備したことにあります。

〈広域だからこそ必要なこと〉

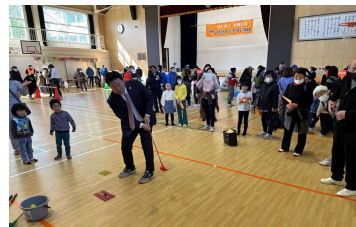
広域だからこそ、人と人とのつながり・地区同士協力する機会をつくる必要があります。

ひとまち協議会では、**各地区で実施が難しくなった盆踊りを、3地区合同で行う納涼音頭大会として実施**しました。参加者は2年連続1000人を超え、ひとまち協議会の中でも大きなイベントとなりました。

※総務省 令和5年度地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する調査研究事業報告書によると、組織区域と学校設置区域との対応関係で、小学校・旧小学校区の割合が約60%に対し中学校区は約12%となっています。



▲総会等で組織内の情報共有を行っています。



▲▲納涼音頭大会だけでなく3世代交流会等多世代がつながれるような活動を行っています。

山の手ひとまもり・まちまもり協議会の概要

平成30年6月設立。令和3年に山の手・浜脇中学校の統合で別府西中学校が新設されました。ひとまち協議会の拠点は、文部科学省の学校施設開放の方針に基づき体育館のコミュニティールームに設置しています。

〈主な活動〉

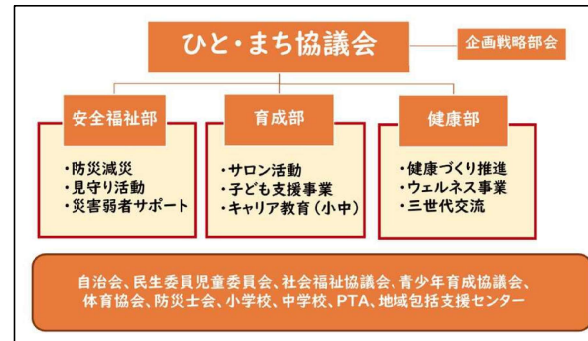
- 安全福祉部：防災士を中心に防災研修など
- 人材育成部：青少年育成協議会を中心に小中学校のキャリア教育支援など
- 健康推進部：3地区親睦ゴルフ大会など
- その他活動：地域ふれあいミュージックフェスタ
納涼音頭大会・スマホ出張教室など



▲別府西中学校の体育館横に拠点のコミュニティールームがあります。



▲スマホ出張教室などの活動は企画戦略部会を中心に実行委員会を立ち上げ、運営します。



◀3部会に加えて企画戦略部会を結成し、大規模な活動などを担当しています。

今回お話を伺いました!

地域づくりはひとの絆

平成28年熊本地震の際、私の地区の避難所の様子などを目の当たりにして、災害時の人とのつながりの重要性を感じました。ただ別府市は土地・温泉・歴史など風土の違いもあり、結束しにくいことが懸念点でした。ひとまち協議会を中心に先を見据え、やれる人で人とのつながりを積み重ねていくことが必要です。

地域づくりはマンパワーの結末が必要不可欠、助け合うひとの絆が大切です。どうせやるなら楽しくやりたい!地域づくりは是々非々ではできません。一目一束一直することがとても大切だと思っています。



平石会長

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：なし
住所：別府市中島町7番49号
別府市立別府西中学校内
コミュニティールーム



◀公式LINE

青山地域コミュニティ協議会 (愛称 青山てらす)



人口	世帯数	構成集落数	高齢化率
498人	245世帯	7自治会	60.0%

令和6年3月時点（「大分県内各市町村の自治区等の状況」より）

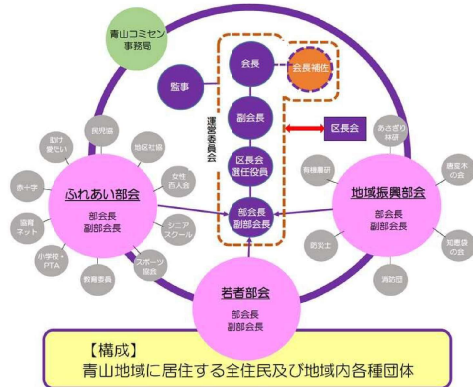
Point 2つの部会を支える「若者部会」の設置

青山地域コミュニティ協議会（以下、青山てらす）では、皆が主役になれるように今まで地区の活動に参加が難しかった若者世代中心の若者部会を立ち上げました。

〈若者部会の役割とポイント〉

若者部会は、自ら企画や運営を行うわけではありません。**他部会のサポートが大きな役割**です。若者の代表として会議で発言をしたり、積極的にイベント当日のスタッフ等を引き受けています。

青山てらすの設立段階で、**若者が意見を言やすくするために、区長会から若者部会の権限を認めてもらい、お墨付き**をもらいました。そのおかげで、若者の意見が地区に反映されやすい現在の体制になりました。



▲青山てらすの組織図は、2つの部会を支える若者部会を中心に置いています。

〈若者部会の存在〉

若者部会は、**20代～50代の16名**が在籍しており、青山地区の盛り上げ役として奮闘しています。特に夏祭りでは、コミュニティセンターをカラオケバーにするアイデアを生み出し、地区内外からたくさんの方が参加しました。

若者部会が生まれたおかげで、地区内の世代間交流が増え、若者世代の地区行事への関心も高まりました。**若者部会の存在が、青山地区に新しい風**を吹かせています。



▲夏祭りでは若者発案でバーを開きました。

青山地域コミュニティ協議会の概要

令和5年3月に設立。青山地域コミュニティセンターを拠点としています。スローガンは「ヤル気・元気・笑顔いっぱい青山」。毎年恒例の「夏祭り」「収穫祭」など大きなイベントに関しては実行委員会を設置し、青山地区の様々な人と協力し企画・運営を行っています。



▲何でも言い合えるような会議にするためワークショップを活用しました。

〈主な活動〉

地域振興部会：販売事業の運営など

ふれあい部会：スマホ教室

健康教室、認知症講演会

生活支援活動など

若者部会：上記2部会に若者の意見を反映



▲令和6年度の認知症講演会は講師を招いて、認知症支援について学びました。



▲収穫祭は夏祭りと肩を並べる青山てらす2大事業の1つです。

地区住民全員が主役に

青山てらすが設立されてから、すべてが上手く進んだわけではありませんでした。様々な人の協力で、青山を好きなメンバーが集まって活動を維持しています。試行錯誤しながら若い力を借りて一歩ずつ前に進んでいます。

若者が関わってくれるようになってから、青山がまた元気になってきました。今後は現状のメンバーだけでなく、今まで関わってこなかった人も、もっと青山てらすに巻き込んでいきたいです。



甲斐会長

今回お話を伺いました！

問い合わせ先
SNSはこちら

電話：0972-26-1300
メール：aoyama-cc@city.saiki.lg.jp
住所：佐伯市大字青山5461番地
青山地域コミュニティセンター



Instagram



Facebook